



(1) システム情報学部

AI（人工知能）やデータサイエンス、スーパーコンピュータなどの専門性を土台に、社会課題の解決、新たな価値創造に挑む人材の育成を目指す。教育のキーワードは「総合的な知」。入学直後から専門科目を学び、目的意識をもって教養科目を履修する「反転教養教育」などさまざまな制度を導入する。例えば、実践の場として大学院生などと協働して考える教育プログラム「異分野共創C3（シークューブ＝Co-Creation & Collaboration）」を導入。入学定員は150人。一般選抜が130人、学校推薦型選抜（女子枠）が15人、「志」特別選抜が5人、私費外国人留学生特別選抜が若干名。

(2) 医療創成工学科

これまで日本には医療機器を専門に学ぶ学科・専攻はなかったが、それを一貫教育できるシステムを構築。定員25人に加え、3～5人の編入枠も設ける予定。教養科目や生理学、解剖学などの医学的な基礎知識、数学、物理学などの工学的な基礎知識に加え、専門科目では医療機器を社会実装する際に必要となる法制度、知財、ビジネスプランニングなども学ぶ。創造性教育も特徴で、批判的思考やデザイン思考、システム思考などの思考習慣を身につける。一般入試の前期日程のみ実施。大学入学共通テスト利用教科・科目は5教科8科目。個別学力検査は数学、理科2科目、外国語に加え、面接を実施する。

(3) 数理・データサイエンス・AI教育

全学部の1年生対象の「データサイエンス基礎学」では、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」と言われる数理・データサイエンス・AIの基礎教育を提供。「リテラシーレベル」と「応用基礎レベル」の二つを用意しており、リテラシーレベルは、今後のデジタル社会に必要な知識を習得。応用基礎レベルでは、数理・データサイエンス・AIを自らの専門分野に応用するための基礎力が習得できるよう設計されている。どちらのレベルも、修了者にはオープンバッジ（デジタル証明）が授与される。

(4) 『志』特別選抜

グローバル社会の課題解決に挑戦する高い志を持つ学生を見出すため、大学入学共通テストを課さず、高大接続卓越グローバル人材育成センターによる第1次選抜、各学部における最終選抜を通して多面的・総合的に判断する。<https://www.edu.kobe-u.ac.jp/admc-info/special.html>



医学部附属病院国際がん医療・研究センター (ICCRC)



多くの医療機関や研究拠点が集まる神戸医療産業都市内にあり、この中で手術・内視鏡治療を核に、次世代医療、新規医療機器の研究・開発を医工連携のもとに進めています。

多くの医療機関や研究拠点が集まる神戸医療産業都市内にあり、この中で手術・内視鏡治療を核に、次世代医療、新規医療機器の研究・開発を医工連携のもとに進めています。

専攻分野を深めながら、社会で求められる横断的な知識も修得できるカリキュラムを多数用意しています。例えば、日本酒学や阪神・淡路大震災など地域と関係深い科目が数多く開講されているのをはじめ、国際協力のための教育プログラム（GCP）、環境問題やSDGsなどとの関係の深い持続可能な開発のための教育（ESD）プログラムなどを整備しています。

統合研究拠点では、スーパーコンピュータ「富岳」を活用した先端研究も推進。「新たな産業創出に向け、君に寄り添い、君とともに未来を創る」

神戸大学は、創立120周年を迎えたのを機に、全学的な組織「神戸大学校友会」を設立。「One Kobe Family」として、神戸大学の在校生、教職員、卒業生、保護者などのステークホルダーが交流し、結束を高めることを目指しています。知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点の実現に向け、オール神戸で全力を注ぎ、次世代を支える優秀な若手教員が研究に専念できるような環境を整えるための支援制度や、優秀な若手教員が輝く卓越教員制度を充実させ、さらに女性の教員雇用支援も進めています。

説明します。そこで、文系・理系に関わらず、すべての学部学生に「数理・データサイエンス・AI教育」を実施しています。「数理・データサイエンスセンター」に50名以上の教員が所属し、学部学生に数理・データサイエンスを提供。

エンズのリテラシー教育を提供。大学院では関西地区の大学との連携により、人材育成プログラムを開発・実施しています。また、学内におけるデジタルトランスフォーメーションの推進体制を強化し、戦略的に展開することを目的に「DX・情報統括本部」を設置しています。

DBLRを核に先端研究推進スタートアップ創出を加速

神戸大学発のスタートアップの育成に努めています。アントレプレナーシップ教育体制を充実させ、地域に根差し世界に誇れる全学的なグローバル・イノベーションキャンパスを構築します」と藤澤学長。

また、持続可能な社会の実現のために日本で唯一の膜工学の総合的研究開発拠点である「先端膜工学研究センター」では、カーボンニュートラルの実現を可能にする機能性CO<sub>2</sub>分離膜や、水資源の有効利用に必要な高機能水処理膜の開発を行つていきます。さらに、未来の水素エネルギー源としてCO<sub>2</sub>フリー水素（グリーン水素）の製造や利活用などに関する新技術の確立を目指して昨年11月、「水素・未来エネルギー技術研究センター」を設置しました。



ふじさわまさと 藤澤正人学長  
1984年神戸大学医学部卒業。89年同大学大学院医学研究科博士課程修了。神戸大学大学院医学研究科教授、同大学医学部附属病院長、医学研究科長などを経て2021年より現職。日本泌尿器科学会理事長など歴任。国産の手術支援ロボット「hinotori」の開発に携わり、1例目の手術を執刀、成功させる。

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 学務部入試課 TEL 078-803-5226 <https://www.kobe-u.ac.jp/>

世界に開かれた国際港湾都市に位置する神戸大学は、「真摯・自由・協同」の学風のもと、「学理と実際の調和」を建学の精神として発展を続けてきました。人文・人間科学系、社会科学系、自然科学系、生命・医学系の4つの学術分野を核に、ノーベル生理学・医学賞をはじめ、数多くの輝かしい業績を残し、有為な人材を多数輩出しています。

さらなる進化に向け、「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」を長期ビジョンに、「デジタルバイオ&ライフサイエンス・リサーチパーク（DBLR）」構想を推進するなど新領域の開発に努めており、来春には「システム情報学部」と「医学部医療創成工学科」を開設するなど、大学都市として再開発が進む神戸の主役としてさらなる飛躍を目指しています。

# 神戸大学

## 「異分野共創研究教育グローバル拠点」充実へ 来春、システム情報学部と医療創成工学科を開設 未来を切り拓くグローバル人材を育成

**建学の理念実現に向けさらなる地域連携を強化**

国際戦略港・神戸にキャンパスを構える神戸大学は、開放的で国際性に富む文化的・歴史的背景を持ち、進取と自由の精神がみなぎる学府です。前身の神戸高商時代の「真摯・自由・協同」の精神を継承し、「学理と実際の調和」を建学の理念として、さまざまな社会的課題解決に貢献してきました。「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」として進化・発展し続けることを長期ビジョンとしています。

藤澤正人学長は、「今、わが国の国立大学は危機的な財務状況に直面しており、少子化による人口減少など」と相まってその維持は厳しさを増しています。しかし、資源に乏しい我が国にとって、最も重要なのは人材であり科学技術の進歩です。こうした時代だからこそ地域の文化、社会、経済を支える拠点として、グローバル人材の育成に努めなければいけません。これまで、神戸市との地域連携プラットフォームの強化を

はじめ自治体や地元企業を含む産業界などとの産官学連携の推進に取り組んできました。社会が大学に何を求めているかを見極め、ステークホルダーの意見を取り入れた大学の研究・教育体制を構築し、博士などの高度人材の養成を進めるとともに、女性や外国人留学生や教員などさまざまな人材を受入れて、多様性の時代を牽引します」と話します。

このためのキャンパスづくりにも注力しており、「インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンター」では、ジェンダー平等やダイバーシティの推進、障害のある学生の修学支援などに取り組んでいます。また、2022年には誰もが心豊かで幸せを実感できる社会の実現に貢献することを目指した研究・社会実装を担うウェルビーイング先端研究センターが発足しました。さらに、ユニークな試みとして昨年4月から神戸大学初となるラジオ関西の番組「神戸大学夢ラボ」の放送がスタート。SDGsと地域連携を大きなテーマに掲げ、神戸大が持つ「知」を情報発信しています。



ふじさわまさと 藤澤正人学長  
1984年神戸大学医学部卒業。89年同大学大学院医学研究科博士課程修了。神戸大学大学院医学研究科教授、同大学医学部附属病院長、医学研究科長などを経て2021年より現職。日本泌尿器科学会理事長など歴任。国産の手術支援ロボット「hinotori」の開発に携わり、1例目の手術を執刀、成功させる。

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 学務部入試課 TEL 078-803-5226 <https://www.kobe-u.ac.jp/>

**新学部・新学設立で学部と大学院の一体化を促進**

神戸大学は、4大学術系列からなる10学部と15大学院、法学と経営学の二つの専門職大学院、経済経営研究所、医学部附属病院、さらに多くの教育研究に関わるセンター群と複数の図書館で構成されています。

また、持続可能な社会の実現のために日本で唯一の膜工学の総合的研究開発拠点である「先端膜工学研究センター」では、カーボンニュートラルの実現を可能にする機能性CO<sub>2</sub>分離膜や、水資源の有効利用に必要な高機能水処理膜の開発を行つていきます。さらに、未来の水素エネルギー源としてCO<sub>2</sub>フリー水素（グリーン水素）の製造や利活用などに関する新技術の確立を目指して昨年11月、「水素・未来エネルギー技術研究センター」を設置しました。

「4つのキャンパスを結び データサイエンス教育を充実」

キャンパスは4地区あり、メインキャンパスの六甲台地区も4カ所に分かれています。藤澤学長は「コロナ禍を契機に教育のデジタル化が進みました。神戸大学では、質の高いデジタル教育に向けての整備を進め、メタバースも視野に入れ、時間間の制限のない理想的なハイブリッドキャンパスを目指しています」と

来春4月には、工学部情報知能工学科をシステム情報学部(6)に改組し、大幅な定員増を図るとともに、大学院システム情報学研究科の定員も段階的に拡充します。これは文部科学省の「高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」ハイレベル枠に選定されたことによるもので、学部と大学院を一体的に運用する「システム情報学カレッジ」も構築。これにより学部を3年で修了し、最短6年で博士を取得できることとなります。同様に来春、医学と工学の融合による医療機器開発の教育を専門にする医療創成工学科(7)を医学部に新設します。昨年4月に設置した医学研究科の医療創成工学専攻との一貫教育によって、新しい医療機器開発を牽引する人材を育成します。こうした学部や大学院、センターが互いに密に連絡を取りながら独創的・学際的な教育・研究を実施しているのが神戸大学の特徴です。